

2016年11月 今月のトピック

『外国株式(先進国)ファンド』

アナリスト 佐藤 明

2016年11月14日作成

外国株式（先進国）ファンドの過去10年のリターンを概観し、主要な運用戦略ごとの運用実績を確認する。

『ポイント』

- 外国株式（先進国）の過去10年の累積リターンは、為替戦略で差が出た。「為替ヘッジあり」ファンドが「為替ヘッジなし」ファンドを上回った。
- 投資地域別のリターンでは、「米国」のリターンが高く、「欧州」のリターンが低い。
- 運用タイプ別の純資産残高では、「配当型」が最大勢力。「配当型」の運用実績の特徴は、低リスク（短期価格変動が相対的に少ない）・平均的リターン。
- アクティブファンドでリターンが最も高かったのは、テーマ型の「ヘルスケア」、「テクノロジー」。最も低かったのはテーマ型の「資源・エネルギー」。

■外国株式(先進国)ファンドの市場構成

- 三菱アセット・ブレインズのファンド分類では、「外国株式(先進国)」に分類される公販ファンド(ETF、DC・SMA専用を除く公募ファンド)は、2016年9月末現在で674本、純資産総額は6兆9,962億円。このうち、純資産額が10億円以上のファンドは420本で全体の62%(金額ベースでは98%)と過半数を超える。
- 純資産額10億円以上のファンドのうち、パッシブファンドは37本で9%(金額では5%)、アクティブファンドは383本で91%(同95%)で、圧倒的にアクティブが主流である。
- 外国資産への投資は為替の影響を大きく受けるため、為替戦略によって対円での為替ヘッジの有無や、他通貨連動(通貨選択型)に区分すると、アクティブファンドのうち為替ヘッジなしは275本(72%)、対円での為替ヘッジありが46本(12%)、通貨選択型が62本(16%)となり、外国株式(先進国)では「アクティブファンドの為替ヘッジなし」が最も大きなカテゴリーである。
- 2016年9月現在で運用期間が10年以上のファンドは、全体の674本のうち112本(17%、金額ベース:25%)、純資産額が10億円以上のファンドでは89本。日本の投信市場は新規ファンドを次々開発する構造であるため、長期運用ファンドの全体に占める比率は小さい。通貨選択型は外国株式(先進国)カテゴリーだけでも1兆円を超える純資産残高があるが、ほとんどが過去10年以内に設定されたものである。

表：外国株式(先進国)に分類される公販ファンド概要

	2016年9月末		運用期間：5年超		運用期間：10年超	
	ファンド数 (本)	純資産残高 (百万円)	ファンド数 (本)	純資産残高 (百万円)	ファンド数 (本)	純資産残高 (百万円)
対象ファンド数	674	6,996,195	278	3,406,148	112	1,749,353
10億円未満	254	85,229	87	40,683	23	8,454
10億円以上	420	6,910,966	191	3,365,465	89	1,740,899
パッシブ・ファンド	37	325,154	22	199,869	11	60,258
為替ヘッジなし	35	320,083	22	199,869	11	60,258
為替ヘッジあり	2	5,071	0	0	0	0
アクティブ・ファンド	383	6,585,812	169	3,165,596	78	1,680,641
為替ヘッジなし	275	5,099,967	121	2,201,560	63	1,611,454
為替ヘッジあり	46	185,455	19	75,707	15	69,187
通貨選択型	62	1,300,390	29	888,329	0	0

出所) 三菱アセット・ブレインズ

■アクティブファンド(為替ヘッジなし)の内訳: 配当型が最大勢力

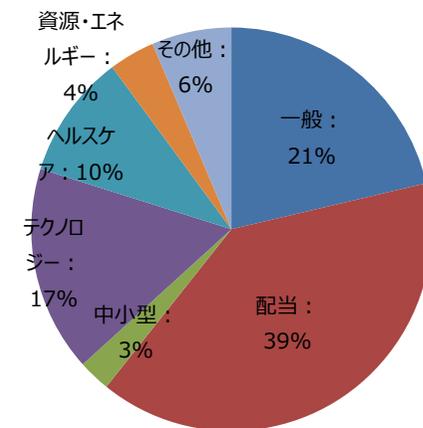
- 外国株式(先進国)分類の最大カテゴリーであるアクティブファンド(為替ヘッジなし)を、さらにその内訳として、「投資地域別」と「運用タイプ別」に分類した。
- 「投資地域別」はグローバル、米国、欧州、その他の4種類に分類した。2016年9月現在のファンド数(純資産額10億円以上、以下同様)の割合は、グローバル:53%、米国:26%、欧州:9%、その他:12%であり、グローバルが半分以上を占めるが、米国もほぼ1/4の比率がある。
- 「運用タイプ別」は分類が難しいが、ここではファンド名に“配当”や“インカム”等が含まれるものを「配当」、「中小型」等が含まれるものを「中小型」、特定の投資テーマが含まれるものを「テーマ型」、「グロース」や“バリュー”等を含むそれ以外のものを「一般型」と区分した。
- 運用タイプ別で最大のカテゴリーは配当型で、ファンド数では31%(2位)、純資産額では39%(1位)。これは、外国株式投資において配当重視戦略の有効性が評価されたというよりは、毎月分配型等で分配原資を生み出し易いことが販売政策とマッチしたためと思われる。

表：アクティブファンド(為替ヘッジなし)の投資地域別・運用タイプ別内訳

	2016年9月末		運用期間：5年超		運用期間：10年超	
	ファンド数 (本)	純資産残高 (百万円)	ファンド数 (本)	純資産残高 (百万円)	ファンド数 (本)	純資産残高 (百万円)
アクティブ(為替ヘッジなし)計	275	5,099,967	121	2,201,560	63	1,611,454
(投資地域別)						
グローバル	145	3,271,269	95	1,837,771	49	1,487,138
米国	72	991,854	12	109,738	8	94,160
欧州	26	174,552	9	62,308	5	23,656
その他	32	662,292	5	191,743	1	6,500
(運用タイプ別)						
一般	92	1,088,155	46	468,978	27	238,175
配当	85	2,009,490	33	1,229,527	21	959,829
中小型	11	131,932	4	12,828	2	5,379
テーマ：テクノロジー	14	841,749	3	37,740	1	28,524
テーマ：ヘルスケア	12	511,250	7	327,675	4	314,377
テーマ：資源・エネルギー	24	188,187	8	43,667	3	28,561
その他	37	329,204	20	81,145	5	36,609

出所) 三菱アセット・ブレインズ

図：運用タイプ別内訳
(純資産残高ベース)



■主要分類別の過去10年間の累積リターン

- 2016年9月現在で運用期間が10年以上あるファンドの 카테고리平均の10年間累積リターン(2006年10月～2016年9月)は下表のようになっている。
- 参考のため、過去10年間の前半5年間(2006年10月～2011年9月)と後半5年間(2011年10月～2016年9月)、運用期間が5年以上あるファンドの過去5年間の累積リターンも載せた。

表：分類別リターン（過去10年間）

	運用期間：10年超			運用期間：10年超		運用期間：5年超		
	ファンド数	10年累積 リターン	年率リスク	前半 5年累積 リターン	後半 5年累積 リターン	ファンド数	5年累積 リターン	年率リスク
パッシブ・ファンド（為替ヘッジなし）	11	28.0%	21.7%	-41.4%	118.4%	22	121.4%	18.5%
アクティブ・ファンド	78	38.5%	21.4%	-30.1%	102.3%	140	94.6%	18.6%
為替ヘッジなし	63	30.1%	22.0%	-35.9%	105.7%	121	96.7%	19.1%
為替ヘッジあり	15	73.5%	18.9%	-6.0%	87.9%	19	81.1%	15.3%
アクティブ（為替ヘッジなし）：内訳								
（投資地域）								
グローバル	49	25.9%	21.2%	-35.3%	98.7%	95	92.8%	18.7%
米国	8	64.2%	24.3%	-34.5%	150.0%	12	142.3%	19.4%
欧州	5	9.9%	25.2%	-44.9%	96.2%	9	91.2%	20.7%
その他	1	67.7%	25.9%	-31.7%	145.3%	5	70.9%	22.9%
（運用タイプ）								
一般	27	27.0%	22.4%	-40.4%	112.4%	46	105.2%	18.8%
配当	21	19.7%	19.1%	-37.8%	93.2%	33	90.3%	16.6%
中小型	2	62.1%	25.9%	-35.0%	149.4%	4	139.4%	19.5%
テーマ：テクノロジー	1	112.5%	25.3%	-19.7%	164.5%	3	138.0%	22.6%
テーマ：ヘルスケア	4	102.6%	22.1%	-32.5%	200.6%	7	180.1%	20.2%
テーマ：環境	2	28.0%	20.7%	-40.6%	114.3%	10	96.4%	18.7%
テーマ：資源・エネルギー	3	-29.9%	33.8%	-4.8%	-26.2%	8	-4.5%	27.4%
テーマ：ブランド	3	47.3%	23.5%	-19.9%	84.6%	3	84.6%	19.9%

出所) 三菱アセット・ブレインズ

■投資地域別では北米、運用タイプ別ではテーマ型・中小型が良好

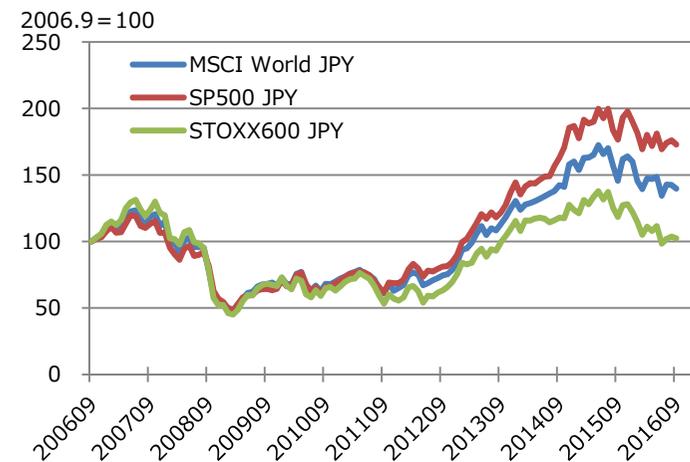
- 過去10年間のカテゴリー別平均リターンを見ると、アクティブファンドのリターンがパッシブファンドを上回った。これには、為替要因(パッシブファンドは対象ファンド全てが為替ヘッジなしだった)と個別要因がある。この10年間で円は対米ドル、対ユーロ共に円高となっており、為替ヘッジありファンドのリターンを押し上げた。個別要因はカテゴリーに占める高リターンファンド(テーマ型)の比率が高かったことである。
- アクティブファンド(為替ヘッジなし)のカテゴリーの内訳を見ると、先ず「投資地域別」では米国のリターンがトップで、グローバル、欧州と続く。下表にあるように、「投資地域別」では概ね各地域のインデックスに沿った実績となっている。特に円ベースでのグローバルと米国で差が出たのは後半5年間で、イノベーションにより米国企業がグローバルでプレゼンスを高めた結果が表れている。
- 「運用タイプ別」では、純資産額トップの配当カテゴリーのリターンは必ずしも高くは無い。市場が下落していた前半5年間でも目立って優位といえるほどのパフォーマンスではなく、過去10年間では配当重視戦略に優位性は見出し難い。
- リターンが良かったのはテーマ戦略のテクノロジーとヘルスケアで、特化戦略は時流に乗れば有効であることが分かる。ただし、資源・エネルギーのようにその逆もある。

表：主要インデックスのリターンと為替動向（過去10年間）

	過去10年間リターン (2006年10月～ 2016年9月)	前半5年間リターン (2006年10月～ 2011年9月)	後半5年間リターン (2011年10月～ 2016年9月)
【インデックス（現地通貨ベース）】			
MSCI世界株式（配当込み、現地通貨ベース）	65.1%	-14.4%	92.8%
S&P500（配当込み、米ドルベース）	101.1%	-5.8%	113.4%
STOXXヨーロッパ600（配当込み、ユーロベース）	34.6%	-23.2%	75.1%
【インデックス（円ベース）】			
MSCI世界株式（配当込み、円ベース）	39.7%	-39.1%	129.4%
S&P500（配当込み、円ベース）	72.9%	-38.4%	180.6%
STOXXヨーロッパ600（配当込み、円ベース）	2.4%	-46.8%	92.3%
【為替レート（対円）】			
円/米ドル	118.18→101.35	118.18→77.06	77.06→101.35
（変化率）	-14.2%	-34.8%	31.5%
円/ユーロ	149.79→113.92	149.79→103.12	103.12→113.92
（変化率）	-23.9%	-31.2%	10.5%

出所) 三菱アセット・ブレインズ

図：主要インデックスの推移（2006年9月 = 1.0）



■パッシブファンドでもリターンには格差、コストが要因

- 運用期間が10年以上あるパッシブファンドの累積リターンを見ると、対象ファンドは全てベンチマークが「MSCIコクサイ」であるにも関わらず、累積リターンの差が最大で5%ポイント近くある。この要因の半分程度が運用管理費用の差であり、残りはオペレーションの差である。
- リターンが最大のファンドと最低のファンドの運用管理費用の年間の差は0.2268%（税込み）であり、これだけで10年間で2.3%程度のリターンの差になる。
- 近年は、ETF市場の拡大もあり、公販のパッシブファンドは運用管理費用の低下が進んできた。現在の運用管理費用の主戦場は0.2%台で、平均的な外国株式ETFとほぼ同程度の水準である。

表：運用期間が10年以上あるパッシブファンド

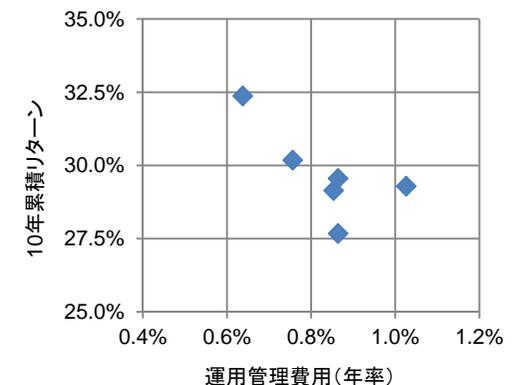
ファンド名	投信会社	運用 管理費用	過去10年（2006.10～2016.9）			純資産 (201609)
			累積リターン	年率リターン	年率リスク	
野村外国株式インデックスファンド	野村	0.6372%	32.4%	2.84%	21.7%	1,080
インベスコMSCIコクサイ・インデックス・ファンド	インベスコ	0.7560%	30.2%	2.67%	21.5%	5,059
三菱UFJ外国株式インデックスファンド	三菱UFJ国際	0.8532%	29.1%	2.59%	21.6%	3,648
外国株式インデックスファンド	三井住友トラスト	0.8640%	29.6%	2.62%	21.7%	4,343
PRU海外株式マーケット・パフォーマー	ブルデンシャル	0.8640%	27.7%	2.47%	21.6%	1,773
ステート・ストリート外国株式インデックス・オープン	Sストリート	1.0260%	29.3%	2.60%	21.7%	13,607

表：2016年9月現在で運用管理費用が低いパッシブファンド

ファンド名	投信会社	設定日	運用管理費用	純資産
ステート・ストリート先進国株式インデックス・オープン	Sストリート	2016/5/9	0.2160%	142
iFree 外国株式インデックス	大和	2016/9/8	0.2268%	83
たわらノーロード先進国株式	AM-One	2015/12/18	0.2430%	4,740
iFree NYダウ・インデックス	大和	2016/9/8	0.2430%	323
<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国株式インデックスファンド	ニッセイ	2013/12/10	0.2592%	30,632
EXE-i 先進国株式ファンド	SBI	2013/5/13	0.3244%	4,559
SMTグローバル株式インデックス・オープン	三井住友トラスト	2008/1/9	0.5400%	48,707
外国株式指数ファンド	三井住友	2009/10/19	0.5400%	1,132
野村インデックスファンド・外国株式（Funds-i 外国株式）	野村	2010/11/26	0.5940%	5,020
i-mizuh 先進国株式インデックス（為替ヘッジなし）	ブラックロック	2013/9/3	0.6156%	475
eMAXIS 先進国株式インデックス	三菱UFJ国際	2009/10/28	0.6480%	32,373

出所）三菱アセット・ブレインズ

図：リターンとコスト



■アクティブファンド「一般型」は米国・グロースが優位、欧州・バリューは不冴え

- 運用タイプ別の「一般型」は、配当型やテーマ型以外をまとめたカテゴリーのため、過去10年間のファンド別のリターンに大きなバラつきがある。下記主要ファンドのトップは110.9%、ボトムは-21.3%。
- リターン格差は、主に「投資地域」が原因で、米国が最も高く、次がグローバル、欧州が最も低い。
- ただ、同じ投資地域内でもリターン格差は大きく、投資地域：米国のトップとボトムの差は89.9%、グローバルでの差は51.1%となっている。
- 過去10年は、全般的にバリュー系の運用スタイルのリターンが相対的に冴えなく、グロース系の運用手法を用いるファンドのリターンが高い傾向があった。

表：アクティブファンド（為替ヘッジなし）の運用タイプ別「一般型」主要ファンドの過去10年リターン

ファンド名	投信会社	投資地域	累積リターン			年率リスク 過去10年	実質運用管理 費用
			過去10年	前半5年	後半5年		
米国NASDAQオープンBコース	野村	米国	110.9%	-15.1%	148.5%	23.5%	1.6632%
フィデリティ・日本・アジア成長株投信	フィデリティ	アジア・オセアニア	67.7%	-31.7%	145.3%	25.9%	1.6092%
フィデリティ・レバレッジド・カンパニー・ストック・ファンドBコース（為替ヘッジなし）	フィデリティ	米国	63.5%	-37.1%	160.0%	28.3%	1.8144%
アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース（為替ヘッジなし）	アライアンス	米国	61.3%	-42.5%	180.5%	21.9%	1.6956%
フィデリティ・米国優良株・ファンド	フィデリティ	米国	45.6%	-39.9%	142.5%	21.9%	1.6524%
フィデリティ・グローバル・ファンド	フィデリティ	グローバル	40.5%	-34.2%	113.4%	22.0%	1.8684%
ブラックロック・USベーシック・バリュー・オープン	ブラックロック	米国	35.6%	-44.1%	142.5%	21.7%	1.7388%
MHAMグローバル・アクティブ・オープン	AM-One	グローバル	33.6%	-39.3%	120.1%	23.1%	1.6740%
グローバル・バリュー・オープン	野村	グローバル	26.9%	-39.9%	111.3%	17.9%	1.6416%
フィデリティ・欧州株・ファンド	フィデリティ	欧州	24.9%	-41.0%	111.8%	24.7%	1.6524%
朝日Nestグローバルバリュー株オープン（Avest-E）	朝日ライフ	グローバル	24.5%	-37.2%	98.2%	24.2%	1.9440%
フィデリティ・グローバル・エクイティ・オープンBコース（為替ヘッジなし）	フィデリティ	グローバル	22.8%	-41.6%	110.1%	21.4%	2.0844%
グローバル・ベスト・ファンド	大和住銀	グローバル	21.6%	-48.3%	135.2%	25.4%	1.8792%
三菱UFJNASDAQオープンBコース	三菱UFJ国際	米国	21.0%	-43.3%	113.5%	26.7%	1.6416%
NN海外株式オープン（コルベッティエ・ファンド）	NNインベスト	グローバル	15.5%	-42.7%	101.6%	21.4%	1.6740%
世界優良株ファンド（3ヵ月決算型）（プライムコレクション）	T&Dアセット	グローバル	12.2%	-48.2%	116.6%	21.0%	1.5984%
インベスコ世界厳選株オープン＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）（世界のベスト）	インベスコ	グローバル	12.0%	-44.9%	103.5%	19.9%	1.8684%
ブラックロック欧州株式オープン	ブラックロック	欧州	4.8%	-40.8%	77.1%	24.5%	1.8144%
損保ジャパン-TCW外国株式ファンド（Bコース）	損保J日本興亜	グローバル	2.7%	-47.4%	95.1%	22.2%	2.0520%
バインブリッジ・ワールド株式・オープン	バインブリッジ	グローバル	-10.6%	-52.9%	89.9%	21.5%	1.8360%
ピクテ欧州ファンドBコース（為替ヘッジなし）	ピクテ	欧州	-19.9%	-51.8%	66.4%	24.6%	1.6740%
ドイツ・ユーロスター・オープン	ドイツ	欧州	-21.3%	-55.0%	74.8%	25.6%	1.6200%

出所）三菱アセット・ブレインズ

■「配当型」はボラティリティの相対的低さが特徴、リターンは相対的に見劣り

- 「配当型」の主要ファンドのリターン格差は33.9%（トップーボトム）と一般型よりもかなり小さい。そもそも運用スタイルが似かよっていることと、10年以上運用実績のあるファンドでは投資地域のバラつきが少ないことが要因である。
- 他の運用スタイルと比べて最も特徴的なことは、相対的にリスク（価格変動）が小さいことである。ただし、これはリターンが悪化しないことを意味しているわけではない。実際、前半5年の市場下落局面でのマイナス幅は、一般型と比べてわずかに小さいだけである。
- なお、外国株式（先進国）分類で最も純資産が大きい「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド」は、投資対象を公益株に絞っており、テーマ性が強いことが要因でリターンが相対的に低くなっている。

表：アクティブファンド（為替ヘッジなし）の運用タイプ別「配当型」主要ファンドの過去10年リターン

ファンド名	投信会社	投資地域	累積リターン			年率リスク	実質運用管理費用
			過去10年	前半5年	後半5年	過去10年	
アムンディ・世界好配当株式ファンド（毎月分配型）（グローバル・ドリーム）	アムンディ	グローバル	38.3%	-30.2%	98.1%	18.7%	1.1556%
D I A M世界好配当株オープン（毎月決算コース）（世界配当倶楽部）	A M - O n e	グローバル	37.3%	-27.2%	88.6%	18.5%	1.1880%
ブラックロック世界好配当株式オープン（世界の息吹）	ブラックロック	グローバル	37.3%	-30.6%	97.8%	18.7%	1.2744%
M H A M海外好配当株ファンド	A M - O n e	グローバル	32.6%	-35.8%	106.5%	18.1%	1.1556%
日興・C S世界高配当株式ファンド（毎月分配型）	日興	グローバル	26.6%	-40.1%	111.3%	19.4%	1.1880%
フィデリティ・ワールド好配当株・ファンド	フィデリティ	グローバル	23.3%	-36.9%	95.3%	19.4%	1.4500%
フィデリティ・グローバル好配当株ファンド	フィデリティ	グローバル	22.1%	-38.4%	98.3%	19.7%	1.4800%
世界好配当株投信（年4回決算型）	野村	グローバル	18.6%	-41.4%	102.5%	18.5%	1.1880%
三井住友・グローバル好配当株式オープン（世界の豆の木）	三井住友	グローバル	18.2%	-38.3%	91.6%	19.3%	1.4040%
みずほ好配当世界株オープン	A M - O n e	グローバル	17.8%	-37.0%	87.1%	18.8%	1.5120%
きらやかグローバル好配当株式オープン	A M - O n e	グローバル	16.9%	-37.2%	86.0%	18.4%	1.5120%
グローバル高配当株式ファンド（毎月分配型）（軍配）	日興	グローバル	14.5%	-39.1%	87.8%	20.0%	1.4148%
ドイチェ・グローバル好配当株式ファンド（毎月分配型）	ドイチェ	グローバル	13.0%	-48.7%	120.0%	20.5%	1.4040%
ニッセイ/パトナム・グローバル好配当株式オープン（12のどんぐり）	ニッセイ	グローバル	12.6%	-44.8%	104.2%	20.4%	1.4796%
グローバル・ハイインカム・ストック・ファンド	野村	グローバル	11.0%	-41.4%	89.4%	18.3%	1.1880%
しんきん世界好配当利回り株ファンド（毎月決算型）	しんきん	グローバル	10.3%	-43.4%	94.9%	20.2%	1.5120%
グローバル株式インカム（毎月決算型）	三菱UFJ国際	グローバル	8.3%	-49.4%	113.9%	21.1%	1.2636%
グローバル好配当株オープン	大和住銀	グローバル	6.3%	-38.8%	73.7%	21.2%	1.1664%
新光ピクテ世界インカム株式ファンド（毎月決算型）	A M - O n e	グローバル	5.9%	-32.7%	57.4%	16.7%	1.8422%
ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド（毎月分配型）	ピクテ	グローバル	4.4%	-32.8%	55.2%	16.9%	1.7880%

出所）三菱アセット・ブレインズ

■「テーマ型」は良くも悪くも投資の成否がはっきり出る

- 「テーマ型」ファンドは特定の投資テーマに集中投資するため、ファンド毎のリターンのバラつきはアクティブファンドの中で最も大きい。リスクも総じて高めである。
- 過去10年でリターンが大きかったテーマは「ヘルスケア」と「テクノロジー」、この2分野はリターンに大きな格差はない。一方、「資源・エネルギー」はマイナスのリターン、「ブランド」、「環境」は似たようなテーマの中でもリターン格差が比較的大きくなった。
- 「ヘルスケア」は、総じて過去5年間(後半5年)の株価上昇が大きかった。グローバルに大型のM&Aが活発だったことや、バイオ医薬品等新分野での商品化が企業収益をけん引したことが寄与した。
- 「テクノロジー」は、アップル、アルファベット、フェイスブックに代表されるインターネット関連企業の新市場創出・拡大がセクター全体をけん引した。
- 「資源・エネルギー」は、原油価格を中心とした国際商品市況が中国の構造変化で2015年以降は大きく下落していることが株価を押し下げた。
- 「環境」や「ブランド」は、それぞれ似たようなテーマであっても、ファンド毎にテーマに関する具体的なコンセプトに違いがあるため、リターン格差が大きくなった。過去10年ではESG投資の先駆けであるSRIをテーマにしたファンドのリターンも相対的に低調であった。

表：アクティブファンド（為替ヘッジなし）の運用タイプ別「テーマ型」主要ファンドの過去10年リターン

ファンド名	投信会社	投資地域	テーマ	累積リターン			年率リスク 過去10年	実質運用管理 費用
				過去10年	前半5年	後半5年		
ピクテ・バイオ医薬品ファンド（毎月決算型）為替ヘッジなしコース	ピクテ	グローバル	ヘルスケア	113.7%	-34.0%	223.8%	24.5%	2.0520%
netWINGSインターネット戦略ファンドBコース（為替ヘッジなし）	G S	米国	テクノロジー	112.5%	-19.7%	164.5%	25.3%	2.0520%
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープンBコース	野村	グローバル	ヘルスケア	102.2%	-28.9%	184.2%	25.5%	2.0520%
グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド（健次）	三菱UFJ国際	グローバル	ヘルスケア	97.4%	-33.7%	197.7%	19.1%	2.3760%
アムンディ・りそなグローバル・ブランド・ファンド（ティアラ）	アムンディ	グローバル	ブランド	67.0%	-23.5%	118.3%	20.4%	1.9224%
ワールド・ウォーター・ファンドBコース	野村	グローバル	環境	52.7%	-31.1%	121.5%	19.8%	1.8360%
野村ピクテ・プレミアム・ブランド・ファンドBコース	野村	グローバル	ブランド	37.5%	-17.5%	66.7%	25.0%	1.8360%
ピクテ・プレミアム・ブランド・ファンド（3ヵ月決算型）	ピクテ	グローバル	ブランド	37.3%	-18.6%	68.7%	25.2%	1.6200%
野村グローバルSRI100（野村世界社会的責任投資）	野村	グローバル	環境	3.3%	-50.1%	107.2%	21.6%	1.0260%
世界資源株ファンド	三菱UFJ国際	グローバル	資源・エネルギー	-19.8%	-6.8%	-14.0%	31.4%	2.0304%
ブラックロック・ゴールド・ファンド	ブラックロック	グローバル	資源・エネルギー	-34.2%	-2.2%	-32.7%	35.0%	2.1600%

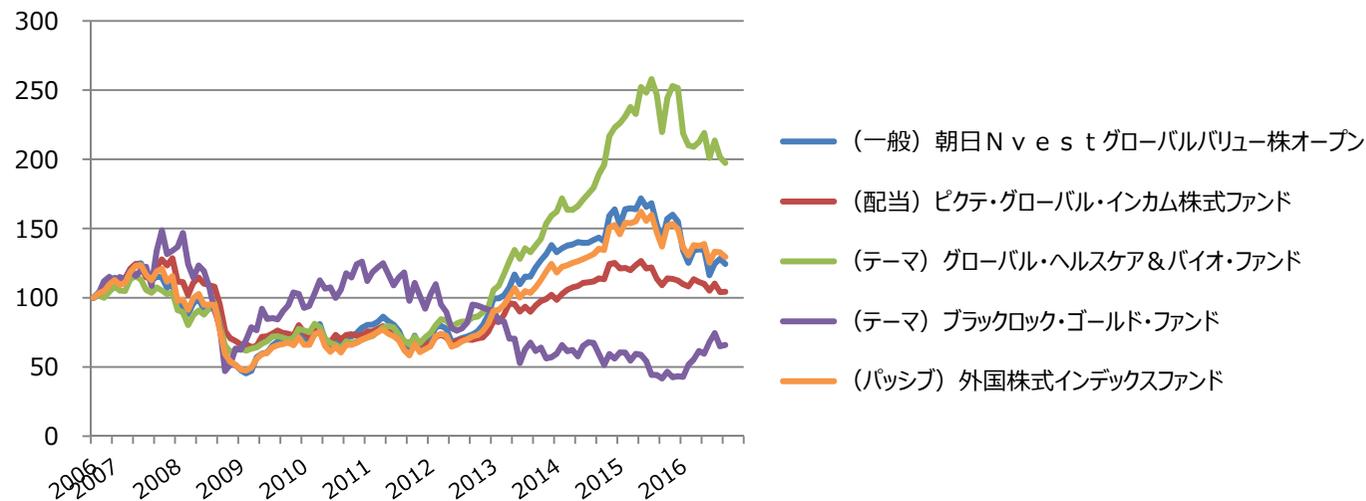
出所）三菱アセット・ブレインズ

■主要アクティブファンドのリターン推移：リターン格差は後半5年で拡大

- 運用タイプ別のそれぞれのカテゴリの中から、純資産残高の大きなファンドを抽出し、過去10年のリターンの推移を比較した。2006年9月を100として指数化し、パッシブファンドに関してはリターンが平均値に位置しているファンドを用いた。
- 過去10年間で最も動きが異なるのは、テーマ型の資源・エネルギーに分類した「ブラックロック・ゴールド・ファンド」である。元々「金」は株式との相関が低く、経済局面でいえば不況期に選好されるアセットクラスであるため、当然の動きと言える。
- それ以外のファンドでは、市場全体が下落局面であった前半5年でのリターン格差は小さく、上昇局面であった後半5年で格差が発生した。
- 経済全体が成長する局面でも、ミクロの視点で見ると何かしらの成長のけん引役が存在するケースが多く、そうした成長分野への投資はテーマ型ファンドが向いているといえる。ただし、どの分野が本当のけん引役かを見極めるのは意外に難しく、目論見が外れた時は不十分な成果しか享受できない。

表：主要ファンドの過去10年リターン推移（2006年9月＝1.0）

2006.9=100



出所) 三菱アセット・ブレインズ

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- MAB投信指数「MAB300」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

標(しめぎ)・佐藤・竹内・大野

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL:03-6721-1010 FAX:03-6721-1020

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会